

# 働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

2006年6月23日

東京都千代田区二番町 12-1 3F

## 長時間・過密労働の解消を

今回は保健室からの悲痛な声を掲載させていただきます。

### 「なんで保健室閉まったの？」

05年9月、朝、突然血尿。からだがとてもだるい。38.5度の熱。年休を取り医者に行くと「腎盂腎炎」の診断。入院もほのめかされたが、服薬と家での安静で3日休んだ。夫と娘はもっと休めというが、保健室登校の生徒も気になり、血尿も体温も軽快したから出勤した。

5時間目に初めて、やっとトイレに。また真っ赤な血尿。医師からの水分補給の指示も無理な現実。とたんに自信がなくなるのを覚えた。また休まざるを得なかった。再度病院に行き、腎臓のMRIもとった。また入院をほのめかされ、観念して休みを取って家で療養に専念した。 体育大会の3日前に学校に出た。「先生なんで保健室ずっと閉まったの？」という生徒の言葉が胸に痛かった。その後もまた血尿が出るのではないかという不安が続き、しばらくトイレに行くのが怖かった。

06年5月末、疲れから風邪を引いた。二日後に修学旅行を控えていたが、それまでにしておかなければならない仕事如山積している。4月から続いている生徒の健康診断実施にかかわる仕事と途切れることのない、しかも常時複数の来室生徒の対応に追われた。デスクワークは部活動が終わり生徒たちが下校した午後6時ごろから。連日、午後8時9時まで仕事。年中こうだ。そんな中で修学旅行もあり、事前に医者に行き、薬をもらって臨んだ。明け方に痙攣発作の生徒が出て病院に運ぶやら、夜の看病やらで睡眠もほとんどとれず、風邪は悪化し私も38度前後の熱だった。

日々10分の休息时间も45分の休憩時間もとれず。昼食も2時3時はざら、4時ごろになる時も。トイレに行くのもままならない。来室生徒はどの子も簡単な対応ですまない問題を内包しており、丁寧な対話が要求される。疲れ果て、生徒の顔が見れない時もある。鬱状態とはこんな状態か。やめたいと思う時もある。

このしんどい働き方も学校に一人しかいない養護教諭の宿命か？いや、もっと人間らしい働き方があってよいのでは！子どもの心身の健康を預かる養護教諭が心身の健康を損ねながら働いている。自分の健康を棚に上げて、子どもに父母に向き合っている仲間が全国にどれだけいるのか。

～大阪発・中学校養護教諭～